



福井市自然史博物館

博物館だより

FUKUI CITY MUSEUM OF NATURAL HISTORY NEWSLETTER



幼体 (2006.7.1)



のう
卵囊 (2006.12.10)
Photo by Iwao Hasegawa

福井の自然史情報

嶺南で新たに発見された アベサンショウウオ

厳寒期に卵を産む生きものがあります。

福井県とその近県にしか生息していないアベサンショウウオです。

最近、新たに嶺南東部でもその生息地が見つかりました。

いったいどんな生きものなのでしょう？

幼生 (2006.5.24)



裏面に詳しい解説があります。

みんなでつくる博物館の展示

～常設展示リニューアルに向けて②～

みなさん、博物館に入ってすぐ正面にある、足羽山を紹介したコーナーをご覧になったことはありますか？市街地に近く、身近に自然観察ができる足羽山。この足羽山を紹介した展示が2008年3月にリニューアルオープンします。



リニューアルの青写真 どんな展示ができるのでしょうか。

新しい展示では、足羽山の自然（動植物や岩石）を徹底的に調べてみなさんにご紹介したいと思っています。

そこで、「みんなでつくる博物館の展示」と題して、昨年からボランティアの方や博物館友の会の方と協力して、足羽山の調査と標本採集、標本整理を行っています。博物館の展示は簡単に見ることができますが、それをどうやって作っているかはなかなか知る機会がないかと思います。そこで、展示ができるまでの舞台裏の様子を、オープンまでお伝えしていきたいと思います。そして興味を持たれた方は、ぜひ展示作製にご参加ください。いっしょに展示をつくっていきましょう！第二回目は足羽山の植物について、キノコを含めて調査の様子をご紹介します。

足羽山の植物

学芸員 中村幸世

来 年度の常設展示（足羽山コーナー）のリニューアルにむけ、植物分野では、維管束植物、地衣・^{ちい}蘚苔類、変形菌類、キノコなどにおいて調査や標本採集が行われています。標本の採集は、主として専門の先生方によるものですが、調査期間中に博物館の行事等を行って、市民の方や博物館ボランティアさんなどにも参加してもらい、みんなで展示を作っています。

維 管束植物は、渡辺定路先生（前館長）により採集、標本作成が行われています。今年度はボランティアさんに6月～11月の間に計10回ほど同行してもらい、植物の観察会も兼ねて先生のお手伝いをしました【写真1】。



【写真1】植物の観察・採集の様子 渡辺先生の丁寧な解説にボランティアさん達は、真剣に耳を傾けていました。（2006.10.13）

初夏、キツリフネの黄色のお花畑に感動し、秋、一面のミゾソバやシャクチリソバに圧倒され、晩秋、サルトリイバラやムラサキシキブなど色とりどりの美しい果実に恵みの秋を実感しました。わずか半年の間に、足羽山の植物たちは様々な姿を見せてくれました。

地 衣・^{ちい}蘚苔類は、大阪自然史センターの道盛正樹先生方に調査、採集をお願いしています。7月、9月、11月に足羽山に採集に来られましたが、9月には市民参加の行事を1回【写真2】、7月と11月にはボランティアさんに調査に参加してもらいました。地衣・^{ちい}蘚苔類はごく身近で見られるものですが、なかなかじっくりと観察する機会がありません。ネイチャースコープ（野外用実体顕微鏡）を持って、蘚類、苔類の違いなどを観察しながら採集しましたが、参加者は小さな植物の繊細で美しい世界に見入っていました。

キ ノコについては、博物館の自然史講座「みんなでつくる博物館の展示③・⑤—足羽山のきのこ観察」で参加者が採集したキノコを寄贈して頂きました【写真3】。今後、博物館側で乾燥標本等にする予定です。キノコの

同定は、きのこアドバイザーの笠原英夫先生にお願いしました。キノコ観察会で集まったキノコは、昨年と今年の計2回で約60種です。参加者は、キノコのおいしさを嗅いだり触ったりしながらキノコの面白い姿を熱心に観察しました。また、キノコの役割について学ぶことでキノコの世界の奥深さを実感できたのではないかと思います。

足 羽山は市街地の中にあり、公園や施設、神社なども多く、市民にとって馴染み深い身近な自然ですが、自然の豊かさは意外に知られていないように感じます。今年度、足羽山の植物調査に参加されたボランティアさん達も、「足羽山にこんなにたくさんの植物があるなんて、知らなかった！」と、驚いていました。自然を観察しようと思うと、どうしても高い山に出かける方が多いと思いますが、来年度のリニューアル展示では足羽山の自然の魅力を存分に紹介して、みなさんに自然の恵みを気軽に体感できる山であることをお伝えできればと思っています。

左：【写真2】自然史講座「みんなでつくる博物館の展示④—コケ観察入門」の様子 道盛先生など専門家の方から蘚苔類の見分け方などの貴重なお話を伺いました。（2006.9.9）

右：【写真3】自然史講座「みんなでつくる博物館の展示⑤—足羽山のきのこ観察」の様子 採集したキノコを実習室に持ち込み、笠原先生に同定していただきました。たくさんのキノコが集まりました。（2006.10.22）



「生物情報GIS」—みんなでつくる福井市いきものまっぷ



秋になると、道端や公園にはかわいいどんぐりがころころと…でもみなさん、どんぐりの木って何の木か知っていますか？植物に詳しい方なら、コナラ、クヌギ、シラカシ…と名前があがるかもしれません。でも、福井市内で10種類以上ものどんぐりのなかが見ることが出来ることはあまり知られていないのではないのでしょうか。また、よく今年は豊作だ、不作だと聞きますが、いったいどうして豊作になったり不作になったりするのでしょうか。身近なようで実はわからないこんな疑問も実際に調べてみなければなりません。

こんな調査にもってこいなのが、当館で昨年度、(独) 科学技術振興機構の支援を受けて作製した生物情報GIS「みんなでつくる福井市いきものまっぷ」です。これは、みなさんが自分のパソコンからインターネットを経由して、福井市の動植物などの分布を見たり、自分のデータを入力することができるシステムです。また、この生きものの分布を気温や降水量などのデータと重ねて見ることも可能です。さらに、公開調査プロジェクトを立ちあげることで、ひとりでは調査することが難しい、広域の自然についてみんなで調査することもできるシステムです。どなたでも当館ホームページから利用することができます。

これまで行った公開調査プロジェクトとしては、「カラスのねぐらを探せ!」と「どんぐりころころどこにある?」があります。2006年1月に行った「カラスのねぐらを探せ!」では、夕方カラスが帰って行く方角をみなさんに報告してもらい、ねぐらの調査を行いました[図1]。2006年10月～11月には「どんぐりころころどこにある?」と題して、福井市のどんぐりのなる木のある場所

をみなさんに報告してもらい「福井市どんぐりまっぷ」を作製しました。また、個人でも自分が調べたきのこの分布を公開している中学生もいます。結果はいずれも当館ホームページの「みんなでつくる福井市いきものまっぷ」からご覧になれます。

身近すぎて気にとめていなかったことを調べて行くうちに、実際の生きものをよく見るようになったり、図鑑を見るようになったり、知らなかったことを知る楽しさでいっぱいです。「どんぐりまっぷ」では、昔拾った思い出の公園めぐりをして、種類の確認をしてくださった方や、庭の木の豊作・不作について毎年の記録を教えてくださいました。来年度も継続して調査していきたいと思っておりますので、ぜひご参加ください。(安曾)



【図1】「カラスのねぐらを探せ!」の結果画面

▶ ホームページアドレス <http://www.nature.museum.city.fukui.fukui.jp>

博物館行事ではどんなことをやっているのかな?

今年度前半の博物館行事の様子をご紹介します。(博物館ではこの他の行事として、自然史講座を開催しています)

● ネイチャーシネマ

(4月～9月 第1土曜日開催)

- ①「海のいきもの図鑑 武器は何? 海の小さな殺し屋たち」(安曾学芸員)
- ②「海のいきもの図鑑 イカやタコには足がない!」(佐藤学芸員)
- ③「アッテンボロー 植物たちの挑戦 旅をする種子」(中村学芸員)
- ④「第4回全国こども科学映像祭入賞作品集」
- ⑤「安全でクリーンな地下工場 住友金属鉱山菱刈鉱山」(梅田学芸員)
- ⑥「氷河期の生き残り ナキウサギの世界」(内藤学芸員)



ネイチャーシネマ

自然史に関する貴重な記録映像を厳選し、180インチの大型画面にて上映しました。上映

前後には、映像がぐーんと楽しくなる学芸員による解説も行いました。「鈴間愛作貝類コレクション展」で展示していた美しい貝類が、魚を食べる!? 映像にびっくりする子どもたちや、「Go!Go! ゴールド展」に関連して行った菱刈鉱山の映像に、熱心に質問される男性もいらっしゃいました。また、映像にあわせて紹介した骨格標本で、実際にウサギとネズミの違いを見比べてたりと映像だけでなく楽しめる行事でした。

● 天体観望会

- 水星の太陽面通過 (11月9日)
 - 昼の金星をみよう (4月29日、8月19日)
 - 木星をみよう (6月24日)
 - 上弦の月 (9月1日)
 - 七夕の星 (7月30日)
 - 夏の星座をさがそう (8月18日)
- (雨天・曇天のため中止—昼の金星をみよう[7月29日]、木星をみよう[5月26日]、土星をみよう[4月21日]、中秋の名月[10月6日]、秋の星座と天王星[11月17日])

ほぼ毎月、県下有数の20センチ屈折望遠鏡で天体を観望しています。こちらはもう説明不要、小さい子どもさんから大人まで、テレビや

写真ではなく実際に見る天体に、みなさん感動しています。福井市街の夜景も美しく、日常を忘れて、地球が宇宙の中のひとつの天体であることを思い出させてくれます。夏は夕涼みにちょうどよく、秋・冬は寒いですが、冴え渡った夜空で天体を見ることができます。今年度は水星の太陽面通過を観望しましたが、日本で次回見ることができるのは26年後とあって、早朝の行事にもかかわらず多数の方が来館されました。

3月9日には土星を観望します。その環の美しさはため息がでるほどですので、ぜひご来館ください。



上:上弦の月をみよう
下:水星の太陽面通過

今後の自然史講座は、当館ホームページまたは市政広報にてご案内しています。ご参加お待ちしております。

